

2024年2月23日

刺繍少年 青山悟

フォーエバー

A Boy Who Sews Forever

2024年4月20日(土) - 6月9日(日)

目黒区美術館

午前10時 - 午後6時 (入館は午後5時30分まで)

月曜休館 (4月29日、5月6日は開館 / 4月30日、5月7日は休館)

観覧料 一般 900(700)円、大高生・65歳以上 700(550)円、中学生以下無料

*障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金

*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります(他の割引との併用はできません)

主催 (公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

協力 ミヅマアートギャラリー

協賛 (公財)北野生涯教育振興会

永遠なん

山

てあるのどしどしよにか

悟
SATORU
AOYAMA



①《東京の朝》2005年、ポリエステルに刺繍(コットン、ポリエステル糸) 中尾浩治蔵
撮影: 宮島径 © AOYAMA Satoru, Courtesy of Mizuma Art Gallery

青山悟

SATORU AOYAMA

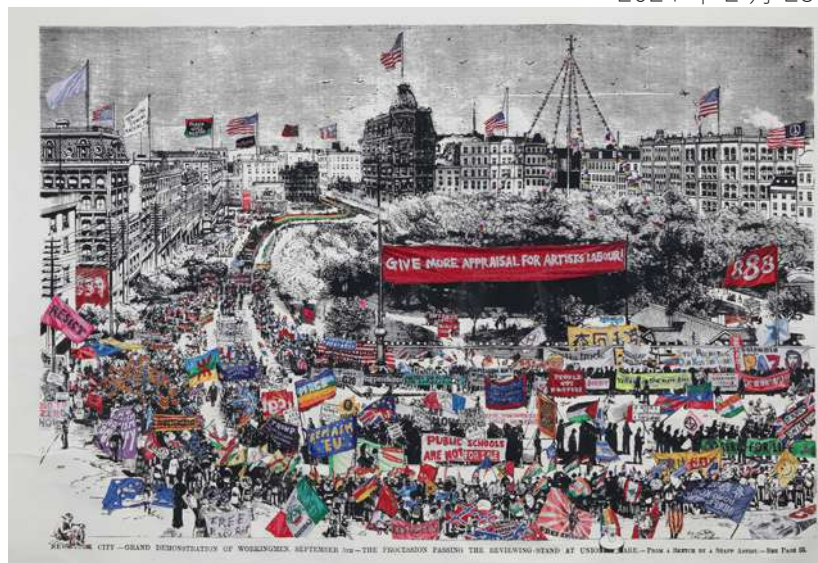
刺繍少年

フォーエバー

A Boy Who Sews Forever

青山悟は、目黒区出身・在住の現代美術作家です。

森美術館や京都国立近代美術館、愛知県美術館など、日本の主要な美術館が青山の作品を収蔵しています。この度は、青山にとって初めての、美術館での個展となります。



永遠なんてあるのぶこよびか
Do you believe in 'Forever'?



目黒区出身・在住の
現代美術作家、
青山悟の美術館初個展

本展の見どころ



「永遠なんてあるのでしょうか。」

この言葉は、青山悟が近年取り組んでいるテーマ、時代とともに社会から姿を消そうとしている様々な「消えゆくもの」への問いかけのメッセージです。

青山は、目黒区出身の現代美術作家です。彼は、刺繍というおよそ美術作品の制作のために用いる技法とは程遠い手段で作品を制作しています。手仕事としての刺繍が、ミシンという工業機械に取って代わられることには、現代社会における労働や資本主義の問題が示唆されると同時に、ミシンで大量生産される製品と美術作品の違いとは何かという問題も示されています。さらに青山の作品は、刺繍は女性がするものという伝統的な男女の役割に対しての問題も浮かび上がらせませす。50代である青山の展覧会名のサブタイトルが「刺繍少年」となっていることには、ジェンダー、エイジズム（年齢差別）の問題も暗示されています。青山は、刻一刻と変化する私たちの生きる社会が抱える様々な問題に対し、常に敏感に反応し、ミシン針でチクリと風刺をきかせます。

この度は、目黒区内の青山の出身校を描写した初期の作品から新作までを展示します。

②《News from Nowhere (Labour day)》2019年、シルクスクリーンプリントに刺繍、ドローイング 個人蔵

③《N氏の吸い殻》2023年、ポリエステル・オーガンジーにミシン刺繍 作家蔵

④《Map of The World (Dedicated to unknown Embroiderers)》2014年、ポリエステルにポリエステル糸と蓄光糸で刺繍 野村道子（ワイルドスミス美術館）蔵

⑤《About Painting》2014-2015年、紙にポリエステル糸で刺繍 タグチアートコレクション タグチ現代芸術基金蔵

撮影：宮島径 © AOYAMA Satoru, Courtesy of Mizuma Art Gallery

開催情報

タイトル 青山悟 刺繍少年フォーエバー
会期 2024年4月20日(土) - 6月9日(日)
会場 目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間 午前10時 - 午後6時 (入館は午後5時30分まで)
休館日 月曜日 (ただし、4/29、5/6 は開館 / 4/30、5/7 は休館)
観覧料 一般900(700)円、大高生・65歳以上700(550)円、中学生以下無料
※障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金
※目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示頂くと団体料金になります
(他の割引と併用はできません)
主催 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協力 ミヅマアートギャラリー
協賛 公益財団法人北野生涯教育振興会
交通機関 JR 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線 「目黒」駅(西口)から徒歩10分
東急東横線・東京メトロ日比谷線 「中目黒」駅から徒歩20分
東急バス 「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分

関連催事

■アーティストトーク

本展の出品作家である青山悟が、展覧会会期中の下記の日時に、自作について語ったり、ミシンによる実演を行います。

日時：5月3日(金・祝) / 6月2日(日) いずれの日も午後2時 - 3時

場所：1階 ワークショップ室

参加方法、定員：当日先着順、20名程度

■トークイベント

社会学、文化政策研究を専門とする講師をお招きし、本展出品作家を聞き手に、お話し頂きます。

日時：5月6日(月・休) 午後2時 - 3時30分

講師：小泉元宏(立教大学社会学部 教授)

聞き手：青山悟(本展出品作家)

場所：1階 ワークショップ室

参加方法、定員：当日先着順、50名程度

■大人のための美術カフェ

本展の出品作家である青山悟と、担当学芸員が、展覧会開催までの経緯などについて、対談します。

日時：5月19日(日) 午後2時 - 3時

場所：1階 ワークショップ室

参加方法、定員：当日先着順、20名程度

※いずれの催事も、参加には当日有効の展覧会観覧券が必要です。

広報用写真

本リリース掲載の図版①～⑤を本展広報用写真としてご提供いたします。

ご希望の方は、申込用紙(4ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をご記入いただき、FAXでお申込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

本展の問合せ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 山田 / 広報担当(事務) 天野・丸

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328

e-mail: mmatoffice@mmat.jp https://www.mmat.jp

青山悟 刺繍少年フォーエバー 広報用画像申込書

宛先：目黒区美術館「青山悟 刺繍少年フォーエバー」展 担当者 宛

FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の図版番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 () 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ()		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	<p>図版番号 使用条件等</p> <p>①～⑤のご希望の図版番号をご記入ください *写真画像への文字載せは不可です。 *原則、写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。 但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 *各作品のキャプション及び下記のクレジットを、必ず明記してください。 撮影：宮島径 © AOYAMA Satoru, Courtesy of Mizuma Art Gallery</p>		
連絡欄			

■ お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。

お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。

■ 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。

必ずご確認くださいませますようお願いいたします。

【広報用画像について】

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・使用後、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像への文字載せは不可です。
- ・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・Webサイトは公開後にURLをお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を [希望する ・ しない]

< 広報用画像に関する問い合わせ先 >

目黒区美術館
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
展覧会担当：(学芸) 山田
(広報・事務) 天野・丸